

第5・6回（11月19日、12月17日）研修会報告

## 「PAを通して仲間と信頼関係を築き、新しい挑戦をする」



11月と12月は、冒険教育(PA)の手法を使った様々な仲間づくりとグループ活動中のファシリテーションを学びました。

会場：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ115・116教室

テーマ：午前・「PA（プロジェクトアドベンチャー）手法を用いたファシリテーション講義と体験」

午後・学生部会「遊ぼう会」共催「子どもへのファシリテーション演習」

講師：鎌田晴美（まなび創造アカデミー） 本田恵子（早稲田大学）

PA【プロジェクトアドベンチャー】は、アメリカで開発された体験学習法をベースにした教育プログラムです。「フルバリュー：みんなの個性を活かす」ことと「チャレンジ・パイ・チョイス：自主的に参加の仕方を選ぶ」ことを大切に、「トラスト：お互いを信頼しあう」グループづくりを目指して段階を追った活動を組み立てていきます。

### 11月の活動：アイスブレイキングと仲間づくり

子どもも大人も初めての場面や人とは緊張します。PAでは、まず、「アイスブレイキング」活動を通じて固まった体や心をほぐしていきます。手をたたいた数のメンバーで集まり、好きなラーメンの味や遊び、兄弟の数などを伝えあううちに自然に自己紹介や他者理解が進みます。また、メンバーの年齢や体力なども考えて「フルバリュー：それぞれが自分の個性を活かして活躍できる」活動を組み立てるため、メンバーが適度に入れ替わりお互いが分かってきた段階で小グループ活動をします。午前は大人だけのため、「エブリボディアップ（写真）」という協力活動を行いました。午後は、2歳から14歳の子ども達と大人たちが参加していたので、「並行あそび」から「共同あそび」に発展できるようにプログラムを組み、前半は「進化じゃんけん」や「早歩き」での様々な身体機能を使って鬼ごっこを楽しみ、その後、3つのグループにわかれ、袋の中に入っているものを外側から触ってみんなで考えて当てる活動をしていきました。休憩時間には子どもたちが、遊びを発展させてと一緒に遊んだり、遊びを教えあったりして、自然な仲間づくりができていきました。こういう場面でのファシリテーションは、「安全・安心できる場を作る」でした。

### 12月の活動：集団活動が苦手な子どもへのファシリテーション

12月は、午後子ども達に「協力」活動を行うため、午前中の研修では、「こんなことが起こったら？」を想定してロールプレイをしながら「新しい活動の見通しが立たないので入りたがらない子の気持ちを受け止めて『仲間呼び込む』声掛けや、「道具を見たときに触りたがって説明を聞けない子やルールを無視して遊びだす子が出た場合の『仲間の維持』の促し方」の練習をしていきました。大人はつい目に見える「参加態度」が悪いとみんなと同じように静かに聞くよう注意したくなってしましますが、PAでは「安心して活動できる場」「自分のチャレンジを大切にす支援」をファシリテートします。この日は、「Zoom」「Rezoom」という絵本のバラバラになったページを言葉なしで協力して並べ替える活動をしました。子どもたちはジェスチャーを沢山使い絵同士のつながりを教え合っていました。「協力活動」ができる準備ができていた為、年齢別に4班に分かれて「パイライン」という長さの異なる3つのパイプを用いて、様々な大きさや質感の違うボールやビー玉などをゴールまで協力してころがして運ぶ活動を行いました。高学年には難易度を上げていったため、各々が「どうやったらうまく運べるか？」とアイデアを出し合い、班のメンバーと協力して楽しんでいました。工作が好きそうな子ども達が多かったので、使った道具を工夫してオブジェを創ってもらいました。

### 次回研修会案内

日時：平成30年1月21日(日) 9:00~16:00 会場：早稲田大学14-716教室

テーマ：「午前・箱庭についての講義と体験 午後・親子箱庭ワークショップ」

講師：横山 将（しろくまデザイン） 本田恵子（早稲田大学）